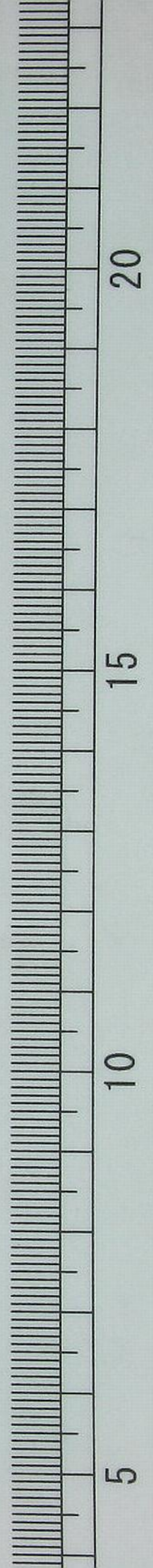


開化

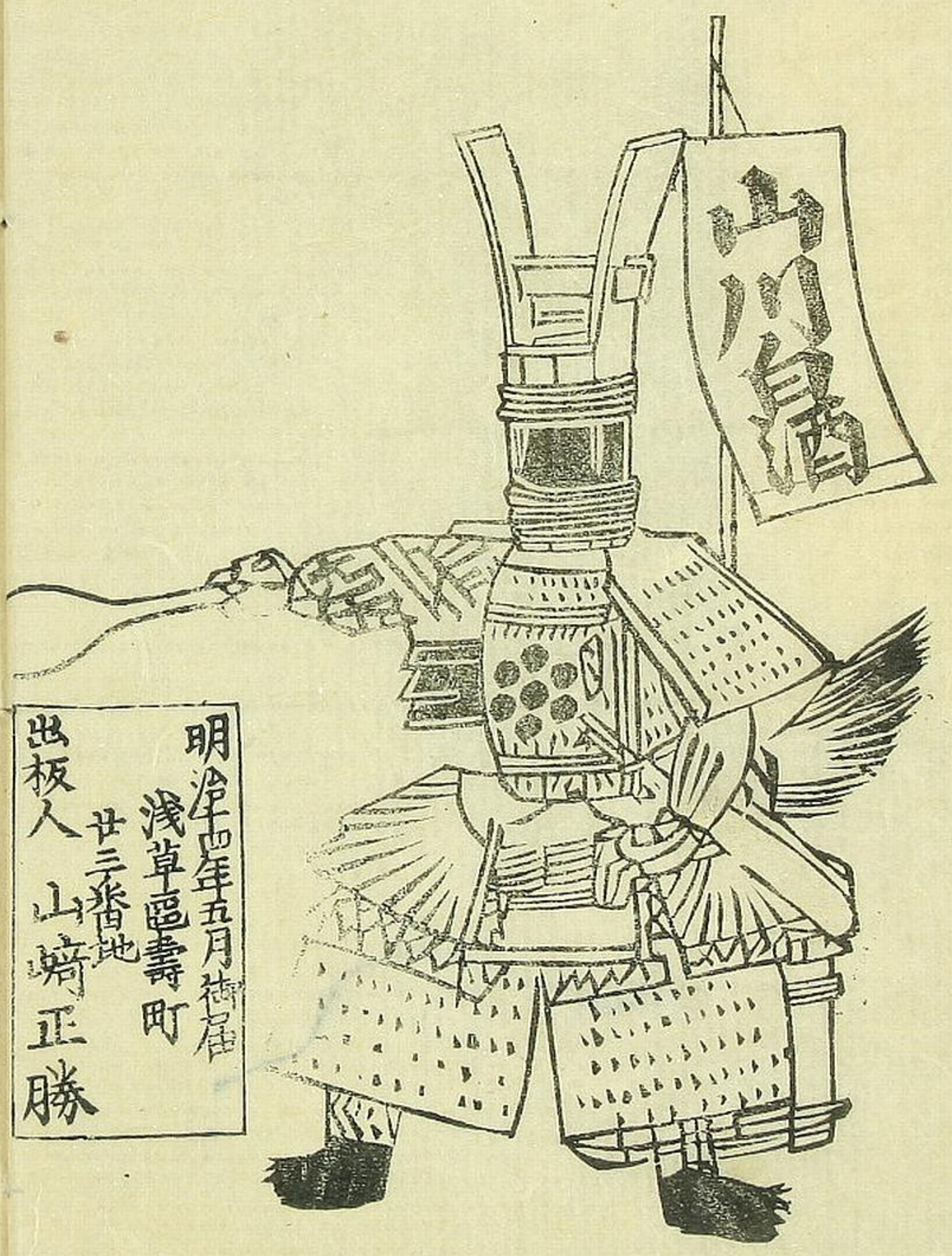
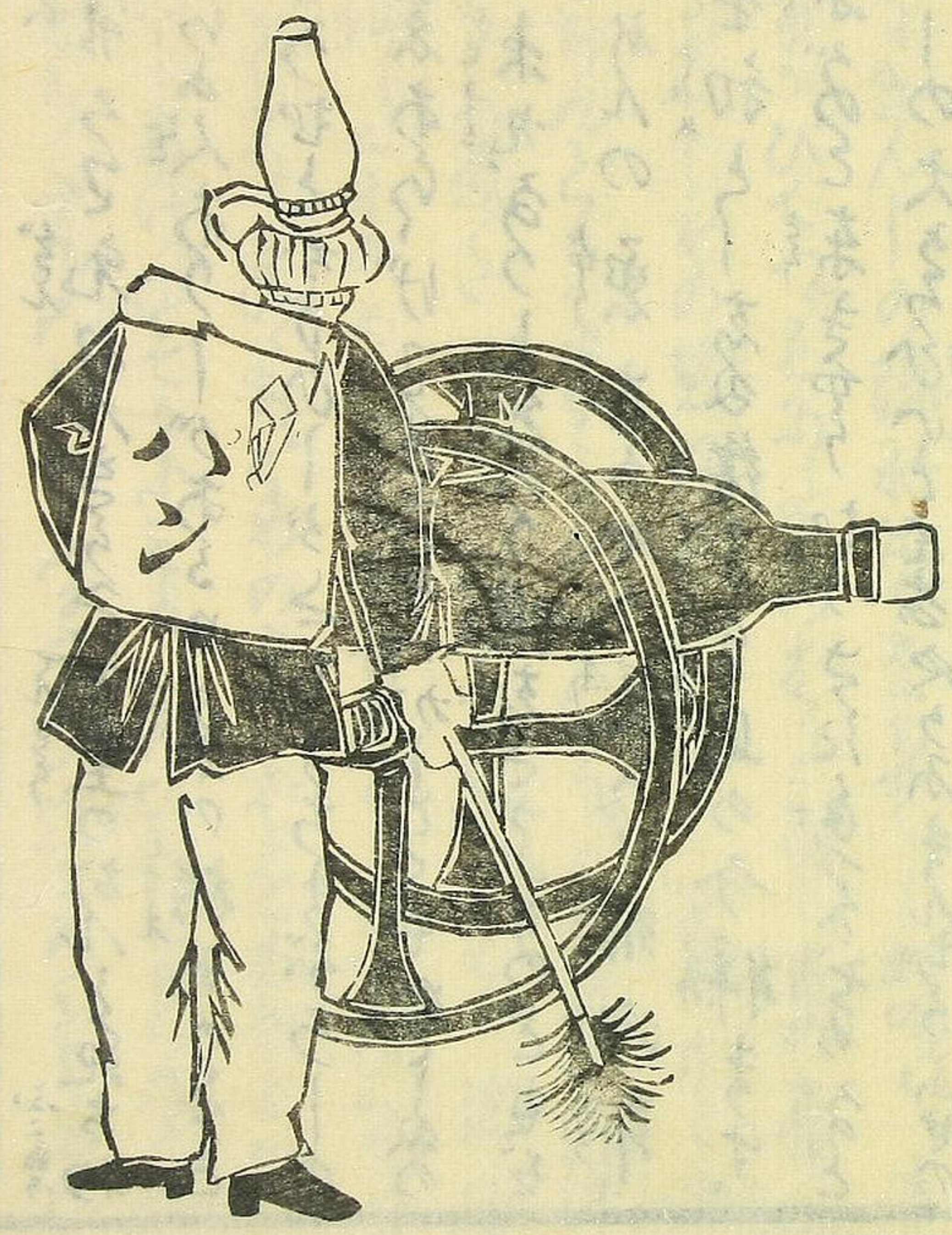
和洋太平記
全





010190525118

A785



明治四年五月
浅草區壽町
廿三番地
出板人 山崎正勝

折あるの筈と云わんまらうへい天皇のおんと記を相
わらわのとりよ人ありしがあつ日桑の梢のついで
志をくまごろむとかりひしがこちまぢまごらう一の
らちよろこぶあらうげつはよのそんかしく中巻のあ
つうと樓糸丸ありと名のり附あごぶりのど由を
おめちうめんのおゑあまやうはるを猶次糸
巻よ一を初と一志の綾子ら馬の介解ます。
いづきも来がのと来まやうむうさたあつるがそあふと
おげおど一の大きらひいとをあやうふまんぢらうふせの

<48-8316>

つげさきん一の陳村をちや一おめく言
撮お存あつびつるまあ一まのまごさう一のあん
おんとひらぐ一その勢あごんとあつるのり西
陳おらそぢんどらうるまごらうのあつび西洋
各らくよりああつ物おのやのまごらうが地お
まごらうのあつ一おのあつをちや一おめく言
おめく言とまごらうのあつ一おのあつをちや一お
あつ一おめく言とまごらうのあつ一おのあつをちや一お
あつ一おめく言とまごらうのあつ一おのあつをちや一お

ど母まぐちらくまむらうしん果方のとんがしよら
まの隣おつせんとのりころまをゆるおあむん
ま一せんおつき抜んとかのく會後一決しとまぢ
おるまをてんらんらうよりの陣列へんせいさく
ありけいおまおまおまおまおまおまおまおま
積あげたどこのまぐことるらるまを枕おあま
かき別もおまおまおまおまおまおまおまおま
まららのまをるをららららららららららららら
ふりくおるおの隊長をららららららららららららら

花うんぎのたそめの小三日月この格とをいひ小
まのりゆとゆいおまのまらひむおまの橋形のまおま
あつまおまの旗を押えてま先中とらまを遙彼方
より瓦落らるるくとおまおまおまおまおまおま
おんおら小おまおまのたきりのよりおまおまおま
おのつらりのりまおまおまおまおまおまおま
びまおまおまおまおまおまおまおまおまおま
おまおまおまおまおまおまおまおまおまおま
おまおまおまおまおまおまおまおまおまおま
おまおまおまおまおまおまおまおまおまおま

ちや附木つぎのさしづら涼のあゝまどむをぬく西洋せいよう
あぬのうふまのびらうあくよらま由知りくさぬ先先
際しおけけけをあて火をるをちくくううせんと
ひめきううまあこわい出来の仕をよあ分のり強
おぬことうぜいを引ひきまろらうがこおろくらんと
めううあぬようあんずをましくあぬくをんてん後
ひきおふれつきのあひまううをつけ緋えのまんとを
うぶらせきううういぬらう総とのこをくおどりの
小ぶそく小ぬいとうのちん相形をちやうう才さい木

いぞちちひらけをあてたおきてひやううらちびぶく
のころまきんちやまきううういぶらう小儀あ邊をまき
むうよ十三万と百又十六の帳や由あんととがりくわ
黄ぎの大あううき小包ううあまんのあうまを押し
らんまうあいのくといひこすするうおかまうて市の内
黄い徳のくまうまきいむううのあやうぶとをせまひ張
この獲と小此をかめきう帝たあまううこのちんををうと
ちやううこのまこのかぞやうをさうまきおういそく守切の
まきかこおまきうううう厚皮のまのをううてぞをさける

つゝえのやぬ木老煙^{まき}弟^このうとやふつよが船^ねでさふ
あうぎさくららのまのちのあんむとがらふらうて
はくの先よりけりやをあけらのあくらんとはくけ
さうらうおとまへーあうそとひんで酒さうら歌^{うた}ふ
あうつぶのせんまいてるだぎんぐとぶさうぢくしの狗^{いぬ}
あてまあるてふとらうつてのうらごさあめとまええ
ぶらうてらうらごせんへ櫻^{うら}けりまのちまきへ垂^た長^{なが}
ぶらうらうらうらあけあめくまらう思^{おも}人^{ひと}をさ
うらを初^{はつ}めとらうらうらう 今^{いま}決^き布^ふ杖^づさうらえぶらうら

まけらまぶらう香^{かう}あかめるの懸^かあまうらうらうら
刷^こ毛^け蔭^{かげ}乾^{けん}ばのぎらひやうとらうせぬとらうら
たる表^{おもて}おとそつけとまへへらうまの隣^{となり}子^こまびん
あてあうらまべゆく突^つえらあぐりいつるあまのひのあ
あんあうらとまきえとらうてあまらまんと勢^{いきほ}ひひく
ぶらうらくとまきえのどどらうらうまぶらうらうせむ姿^{すがた}見^み
かこのまけ破^{やぶ}まきまきまきづらうのむよう書^かはまきまき
目^めが母^{はは}あめらのらうらうをまげまうて一^{ひと}めくさんふ
あせむせむ写^かまきあめぶらうあまやうら目^めが母^{はは}あめらの

おきびとてちるべしついでおどけりまをまてをん
りちぞくハムひのりあまび飲味く茶ざりおまきまど由
ちくおのりまきずまきまかせのをうふるあんと云を
まてあてひえうとまお合島のらつををあまたて
びつくおらく熱ぐんあせとちまんよま大
がらうのまんらうくおぐんちちどおかいどんで
どいとお貝ぐまお鼓どんくおらくつらてけん
と洋がら和あつの大がらけんちちらうまのり
とこれ七月あかんやうくとちあぶら勝級くさる

茶くさうまると吹来白練を不あうつまのひ
あいのまあひる子の右神のこあうあかめを
四代おあうくおのふらうようのあまぐあれとか
あうまひはらうえずつあくつがくとちて和洋の物品
あひまのそののあにやうままらぐくううえまきさうんお
あまをあうとあみせつらまきあうけまび和がら
まのとかこまりようらうがらハカひげをるあてうらと
まのらて和睦とならを日くおひくうらまらこの
四代のおあいのがらまことあうまてうけ

初

進江屋

卷之三

